



International Medical Tour

in Vietnam



IMTとは



インターナショナルメディカルツアー（以下、IMT）では現在約学生連盟が毎年参加している国際シンポジウムや海外留学とは異なるプログラムとなっています。IMTは現地医療施設、孤児院の見学、ボランティア活動、文化体験などを旨とするスタディーツアーです。実際に現地へ赴き、見学、体験を通じて発展途上国の医療について考えていきます。

Day 01

こんにちは！今回IMT初参加でスタッフの坪井佑佳です。第3回IMTが始まりました。今回はベトナムでの開催です。ベトナムの季節は雨季と乾季のみで、暑くなることが予想され、寒い日本との違いに想像がつかず洋服に悩みながらもいざベトナムへ出発です！



ベトナムに到着！！現地ガイドさんと無事に合流し、皆で観光をしに行きました。移動は基本的にバスだったのですが、あまりのバイクの多さに参加者全員唖然としながらその風景を眺めたのを覚えています。そしてホーチミン市内にあるベトナムで有名なサイゴン大教会とサイゴン中央郵便局を見て回りました。



初日の夕食は前回のIMTでもお世話になったHISのスタッフさんにおいしいベトナム料理のお店に連れて行っていただき楽しいひとときを過ごしました。



International Medical Tour in Vietnam

Day02

初日に続き2日目の記事も坪井が担当します！2日目はIMTのメインである医療施設の訪問と現地の学生との交流会です。



◀午前はフランス系の病院であるFV病院を見学しました。日本の医療との違いに驚かされることも多々ありましたが、医療従事者として患者さんを助けるために何ができるかという根本の部分は世界共通なんだと改めて実感できました。ツアー参加者にとっても勉強になることがとても多い一日でした。



◀午後はBach Viet短期大学を訪問しました。現地学生からベトナムの伝統の歌や踊りの披露をしてもらいました。制服がベトナムの伝統衣装であるアオザイということに驚きました。私たちも自己紹介し、日本の歌を歌いました。ステージの上で緊張しましたが、現地学生の温かい声援を受けながら頑張りました。その後皆さんと交流しました。日本語を勉強しているということで、日本人としゃべりたい！という意欲が伝わってきて、自分ももっと意欲的に勉強しなければと身が引き締まりました。



参加者の感想

今日はベトナムに来て初めての医療機関の見学でした。ベトナムは日本に比べ医療体制が劣っているという認識で訪問しましたが、FV病院はしっかり患者の抱える問題に対応しているという印象を受けました。午後に訪問した短期大学では現地の医療系学生と交流でき、貴重な時間を過ごすことができました。病院も短期大学も、私たちが温かく受け入れてくださりベトナム人の優しさを感じました。

午前中はFV病院を見学させていただきました。そこではベトナムの中で最高レベルの医療が施されていました。VIPルームを初めて見ましたが、東京などの高い病院には付いているのかなと思うと、日本とたいして差はなく、患者を呼ぶ時に名前を使うことと、処方箋をメールで送れることくらいかなと思いました。また、薬局部長の方も日本のように基本的なことがしっかりと出来る薬剤師を欲していると思いました。



International Medical Tour in Vietnam

Day03

3日目は山田麻友美が担当します！

午前中はベトナム伝統博物館、ツーズー病院の平和村を訪問しました。午後は戦争証跡博物館を見学し、ベトナム戦争について学びました。その後、枯葉剤の被害を受け結合双生児として生まれたことで有名な「ベトちゃんドクちゃん」のドクさんとの対談を行いました。



ベトナム伝統博物館はベトナム初の伝統医学を展示している博物館です。ベトナムの伝統医療に関する資料が数多くありました。薬草の標本や天秤、薬を保管する棚など、昔、ベトナムで使われていたものがたくさん展示されていました。参加者たちは全員熱心にガイドさんの話に耳を傾けていました。

ツーズー病院ではベトナム戦争の影響を受けた子供たちの治療やリハビリを行っています。病院訪問後、結合性双生児として生まれたドクさんと対談を行いました。ドクさんはこの病院で分離手術を受け、現在この病院で職員として働いています。ツーズー病院の平和村では子供たちと交流をしました。交流を行った子供たちは元気一杯で、いろいろなことに興味を示し、私たちの持ち物を探ったり、肩車や抱っこをしたりしてお互いの距離を縮めました。職員の方の話によると、子供たちは自由に外で遊ぶことができないので、私たちのようにボランティアとして遊びに来てくれる人を楽しみにしているそうです。少しの間でしたが、触れ合いお互い仲良くなることができました。



戦争証跡博物館に行った後、ドクさんと対談を行いました。ドクさんはツーズー病院で日本人医師による分離手術後、日本に治療に来られていることもあり、大の親日家です。対談ではドクさんによるベトナム戦争の説明の後、質疑応答を行いました。多くの質問に対してきちんと、納得のゆく答えを返してくださいました。ドクさんの話から、参加者一同戦争は絶対してはいけないことも学びました。



参加者の感想

ベトナム伝統医学博物館ではベトナムの歴史を知りながらベトナムにおける医学の発展を学ぶことができました。ドクさんにお話を伺うにあたり戦争博物館や平和村を訪れ、戦争の悲惨さや枯葉剤の影響を目の当たりにし、今の自分にできることは何なのだろうと深く考えさせられました。ベトナム戦争について皆に知ってもらいたいというドクさんの熱い思いを忘れずに日々勉強していきたいと思えます。





International Medical Tour in Vietnam

Day04

こんにちは！IMTスタッフの山田麻友美です。
4日目は、午前中はベトナムの先進的な病院に行き、午後は日本語学校、そして夜は現地で働く日本人医師の方と座談会をしました。



◀ファミリーメディカルプラクティスという外資系クリニックでの見学です。ベトナムの医療の最先端は私たちの想像をはるかに超えて整っていました。ですが、バスさんによると、一般の方が行く病院とはかなりの差があるようです。また、海外で日本人医師・薬剤師が働く需要はあるということ、そして、需要はあるものの日本人患者の対応を任せやすいことを知りました。

人文社会科学大学での見学の様子です▶
人文社会科学大学には日本語学科が設置されており、JICAの日本人教師の方が教鞭をとっています。この日は川柳・俳句コンテストが開催され、私たち日本人は審査員として参加しました。ほかにも、現地の学生から日本の文化についてのアンケートを受けました。



◀ラッフルズメディカルクリニックで働く日本人医師の方との座談会です。
HISのスタッフさんも交えて、現地での働き方やなぜベトナムで働くことになったのか、など様々なことをお聞きしました。日本人の海外での働き方がたくさんあると分かり、とても勉強になりました。



参加者の感想

今までの施設訪問では、ベトナムの医療はそう発展している印象はなかったのですが、日本ではあまり見ない院内の強固な連携や最新機器による治療システムがそこにはあり、驚きました。また、日本では異常なまでに大切にされる倫理によるものではなく、ビジネスとしての医療が確立されており、新しい視点を得られました。

ファミリーメディカルプラクティスでは、救急整備がしっかりと整っていないベトナムでも、5分ほどで救急車が到着するシステム。詳細に設定された質問や必ず2人以上常駐しているなど、手厚い対応が感じられました。また、街の発展に優れた薬剤師や医者の子育てが追いついていないジレンマがあることを知り、人材育成の大切さを知りました。



International Medical Tour in Vietnam

Day05

こんにちは！国際渉外部IMT部門スタッフの小川理紗です。

5日目は午前オープン大学の学生との文化交流を行いました。午後は孤児院を見学し、施設で生活する子供たちと遊びました。



オープン大学では3つのグループに分かれ、日本の行事や遊び、食文化についてフリートークで紹介しました。折り紙や日本のお菓子、剣玉などを持っていき、日本語を使いながらベトナムの学生に説明をしました。ベトナムの学生たちはとても好奇心旺盛で、習得したばかりの日本語を一生懸命使いながら、私たちにたくさん質問をしてくれました。反対に、ベトナムの学生たちが私たちのためにベトナムについてのプレゼンテーションもしてくれました。ベトナムの食べ物やお祭り、伝統医学などについてパワーポイントを使い劇も交えながらわかりやすく教えてくれました。ベトナム語は一切使わず、全て日本語で説明してくれました。実際にベトナムでとれる果物やたくさん売られているお菓子も用意してくれました。



ベトナム学生が用意してくれたお菓子▶



大学では最後に、日本の浴衣とベトナムのアオザイをお互いの学生に着せ合い、写真撮影をしました。浴衣の数に限りがあったため数人しか着せてあげられませんでした。何回もじゃんけんをしなければならないほど日本の浴衣は人気でした。



午後に訪れた孤児院では約340人の子供たちが過ごしています。しかし、私たちが訪問した時間はちょうどみんな学校へ

行ってしまっていたため、少人数での交流となりました。ベトナムでは、出稼ぎに来た若い人が子供を出産しても、養う経済力がなく産んだ子を捨ててしまうという問題があります。そのような子供たちはこの孤児院に預けられ、自立できるようになるまで集団生活を共にします。現在は、生活している子供の数に対して育てる職員が足りていない状況が続いています。



参加者の感想

折り紙で手裏剣・風船・鶴などの折り方を教えていたら、全く知らないリースみたいなものの降り方を逆に教えてくれたり、これが折りたいと画像を見せてくれたり、大人数相手で大変でしたがとても楽しかったです。私もこれくらい本気にならなきゃと触発されました。



この孤児院では生まれてから親がない子は皆同じ苗字が付けられ大きな家族として生活をしていました。短い交流時間でしたが子供たちの笑顔を見て良かったです。



International Medical Tour

in Vietnam

Day06

さて、今回のメディカルツアーも最終日となりました。6日目は引き続き小川が担当します。最終日は一日自由行動でした。ホーチミンには観光スポットがたくさんあります。丸一日を使い、ホーチミンを楽しみました。

この日はちょうど近くの大学で文化祭が行われていました。ベトナムの朝はとても早いです。文化祭は朝の7時に始まり、私たちは7時半からのチアダンスを見に行きました。現地の卒業生に案内してもらい、薬学部校舎を見て回ることができました。校舎内では何やら実験をしている学生がいる一方で、外では大きな音楽が流れていたり屋台が並んでいたり、とても賑わっていました。



▲ホーチミン医科薬科大学



▲文化祭でのダンス会場

文化祭の後はホーチミンの観光スポットであるサイゴン動植物園へ行きました。この動植物園は2014年に150周年を迎えており、アジア最古の動物園として知られています。園内はゾウやキリン、クマなど多種多様な動物たちがいました。植物園には、日本ではあまりない大きな草花がたくさんありました。



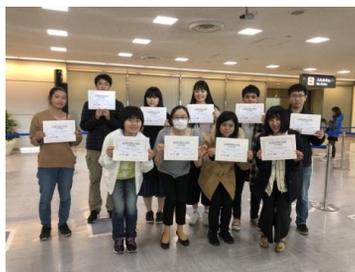
▲ビテクスコ・フィナンシャルタワー（左）とタワーからの眺め（右）

夕方にはビステコ・フィナンシャルタワーへ行きました。このタワーはホーチミンで一番高く、ベトナムの発展を象徴しているといわれています。私たちは52階にあるバーへ行きました。暗くなるとホーチミン市内の建物や道路の明かりがとてもきれいに見えました。

最後の最後までベトナムを満喫し、いよいよ日本へ帰る時間となりました。現地で知り合った友人やガイドさんとの別れを惜しみながら成田行きの飛行機へ乗り込みました。



▲一日案内してくれた現地の大学の卒業生



▲成田空港にて無事に帰国しました